胎児頭臀長計測による妊娠週数推定の実用的検討

（分担研究：胎児・新生児の発育に関する研究）
研究協力者：竹内久彌
共同研究者：佐藤隆之、島田信敬

要約: 現在臨床の実際に汎用されている妊娠初期の超音波断層検査による胎児頭臀長を指標とした妊娠週推定法の正確性、実用的意義を検討した。563例を対象に、最終月経、大腿骨長、大横径、頭臀長と妊娠持続日数の分布と平均持続日数との関係についてWelchのｔ検定、Wilcoxonの順位和検定を行い、頭臀長、大横径、大腿骨長、最終月経の順に正確であると結論された。

見出し語: 頭臀長、大横径、大腿骨長、最終月経、妊娠週数

目的: 妊娠週数もしくは分娩予定日の算定には、従来最終月経初日起算法がほとんど唯一の方法として採用されてきたが、必ずしも正確な方法ではないことが知られていた。超音波による胎児計測が可能になってからは、これによる大横径や大腿骨長の計測値を用いることで妊娠週数推定がかなり正確に行われ得ることが知られ、最終月経起算週数を補正するために用いられるようになった。最近では経膣超音波の普及により、胎児頭臀長による妊娠週数の推定または補正が広く行われるようになっている。胎児頭臀長による妊娠週数推定は理論的に正確で、妊娠初期に容易にできることから採用されるようになったものであるが、実は他の推定法と比較して実際どれほど正確なものかはよく知られていなかった。そこで、今回我々は、日常的レベルでの本法の実用的意義について検討を加えた。

方法: 対象として、１９９６年度中に当科で自然分娩され、最終月経が明らかで、その妊娠の初期に経膣超音波で頭臀長（１０～４０㎜）が計測され、さらに妊娠中期胎児超音波スクリーニングで大横径および大腿骨長が計測されていた５６３例を用いた。最終月経、頭臀長、大横径、および大腿骨長のそれぞれから求められた妊娠週数を用いて、妊娠持続日数を比較した。

結果: 妊娠持続日数の分布は最終月経群（２４１－３３６日）、大腿骨長群（２４１－３０５日）、大横径群（２３４－２９８日）、頭臀長群（２４２－２９４日）の順に広く、平均持続日数は最終月経群（２７８．３±１１．６日）、大腿骨長群（２７７．９±１０．０日）、大横径群（２７７．０±１０．３日）、頭臀長群（２７６．０±８．５日）の順に小さい。Welchのｔ検定およびWilcoxonの順位和検定では最終月経群と大腿骨長群との間に有意差を認めない他は各群間に明らかな有意の差もしくは有意差のある傾向のあることが判明した。すなわち、今回検討した４種類の妊娠週数推定法は、頭臀長、大横径、大腿骨長、最終月経の順に有意に正確であると結論された。

結論: 最終月経初日、妊娠初期胎児頭臀長、妊娠中期胎児大横径および妊娠中期胎児大腿骨長の４種類の実用的妊娠週数推定法のうち、妊娠初期胎児頭臀長計測法が実用的レベルで明らかにもっとも正確な妊娠週数推定法であり、これまで臨床的に広く採用されてきた最終月経初日起算法はもっとも不正確な妊娠週数推定法であると結論された。

順天堂大学浦安病院　産婦人科
Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Urayasu Hospital

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:現在臨床の実際に汎用されている妊娠初期の超音波断層検査による胎児頭臀長を指標とした妊娠週推定法の正確性、実用的意義を検討した。563 例を対象に、最終月経、大腿骨長、大横径、頭臀長と妊娠持続日数の分布と平均持続日数との関係について Welch の t 検定、Wilcoxon の順位和検定を行い、頭臀長、大横径、大腿骨長、最終月経の順に正確であると結論された。